

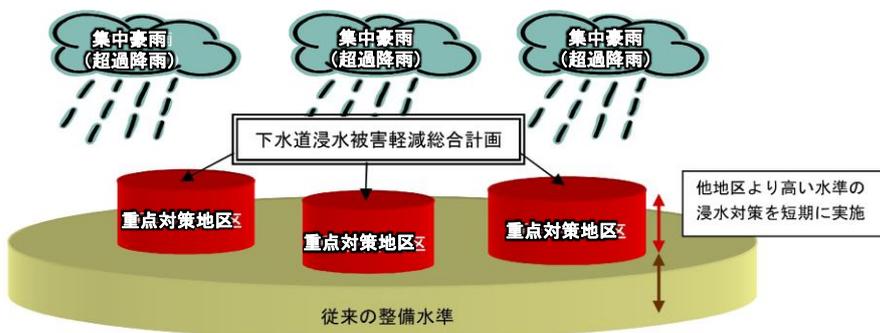
「下水道浸水被害軽減総合計画」策定のご提案

1. 「下水道浸水被害軽減総合計画」とは

下水道の役割の一つである「浸水防除」については、これまで、概ね5年～10年に1回発生する降雨を対象に、地域で一律に浸水させないように施設の整備が進められてきました。

しかしながら、近年、全国各地で集中豪雨が頻発し、時間雨量が100mmを超える降雨など、下水道の計画規模（雨水排除能力）を超える**集中豪雨や線状降水帯**等も数多く発生しています。さらに、都市部への資産集中や都市機能の高度化により都市浸水による被害ポテンシャルは増大し、人命や都市機能に甚大な影響を及ぼす被害が生じています。これらの浸水による**被害をできるだけ軽減（最小化）**する対策を緊急に講じる必要性が高まっています。

「下水道浸水被害軽減総合計画」は、都市機能が集積した地区等を重点対策地区に選定し、下水道施設の整備水準を大きく超える集中豪雨（超過降雨）に対して、雨水貯留管等の整備のハード対策に加え、**ソフト対策を組み合わせた総合的な浸水対策**により、緊急かつ効率的に、都市浸水による被害の最小化を図ることを目的としています。



出典：下水道浸水被害軽減総合計画策定マニュアル（案）
令和3年11月 国土交通省

2. 「下水道浸水被害軽減総合計画」策定の目的と方策





3. 期待される効果

浸水常襲区域に対して、 緊急的な浸水対策 を実現（対策効果の早期発現）
浸水シミュレーションに基づく 被害が想定される地区 に対して、広く浸水対策が可能
超過降雨 に対しての 浸水被害の軽減 （都市機能の確保等）を実現
対策地区を限定することで、 効率的な雨水整備 を実現
ハード対策・ソフト対策を組み合わせた総合的な浸水対策により 被害の最小化 （都市活動の継続）を実現

4. 「下水道浸水被害軽減総合計画」の策定方法

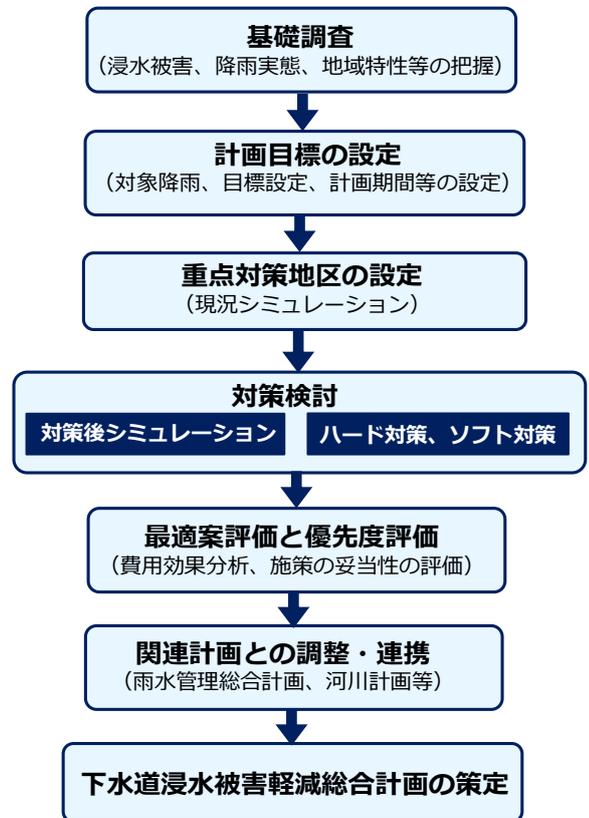
下水道浸水被害軽減総合計画の策定フローは、右図のとおりです。

「計画目標の設定」、「重点対策地区の設定」では、浸水被害（想定）状況、地域特性、財政状況等を踏まえ、現況施設の浸水シミュレーション等を用いて設定を行います。

また、「対策検討」においては、対象降雨に対し、浸水シミュレーション等により施設の能力評価を行い、**ハード対策とソフト対策とを組み合わせた総合的な対策**の検討を行います。

「最適案の評価」では、各対策の費用対効果を分析して施策の妥当性を評価するとともに、「関連部局との調整」を行い、**浸水被害の解消に向けた総合的な計画**を策定いたします。

当社では、雨水管網を詳細にモデル化した雨水流出解析シミュレーションによる手法のほか、雨水管網を簡略化した簡易シミュレーション手法など、豊富な実績を有しており、自治体の浸水状況、地域特性、財政状況等の様々な課題に応じて、最適な検討手法をご提案いたします。



主な業務実績

- ◆ 埼玉県戸田市 下水道浸水被害軽減総合計画策定業務委託（令和2年度）
- ◆ 新潟県新潟市 鳥屋野排水区他下水道浸水被害軽減総合計画策定業務委託（平成29年度）
- ◆ 兵庫県伊丹市 雨水基本計画変更他業務委託（平成28年度）

お問い合わせ・資料のご請求

株式会社 東京設計事務所 東京支社

・プランニンググループ 田口英明 TEL 03-3580-2757 hideaki_taguchi@tokyoengicon.co.jp